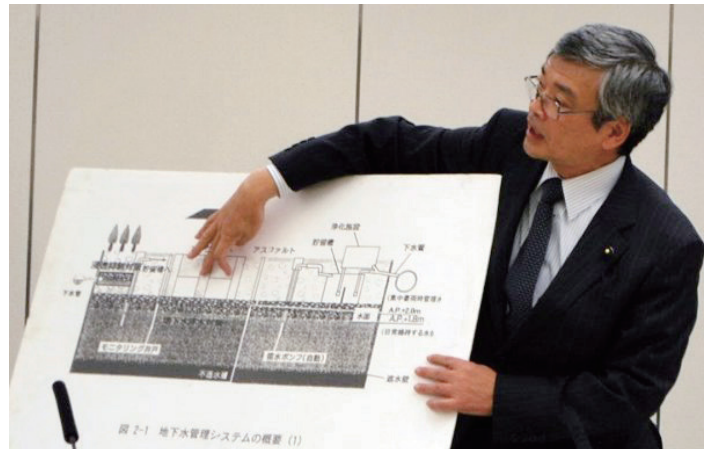




# 豊洲移転 これだけの 大問題が

## 1 汚染だらけの土地 へ移転強行

2001年に当時の石原知事が豊洲の東京ガス工場跡地を候補地に指名。ガス工場では、都市ガスをつくるのに大量のヒ素が使われ、副産物として発がん性のベンゼンや猛毒のシアンが形成され、大量のタールも地中に浸透しました。日本共産党都議団は、市場候補地たりえないと問題点を告発し続けてきました。



パネルを使って質問する、そねはじめ都議 = 10月28日、都議会

## 2 盛り土せず 地下空間つくる

東京都は土壌汚染対策として、専門家会議での検討をうけて、きれいな土を4.5m盛ること(盛り土)を決定。ところが、日本共産党都議団の調査で、主な建物部分の下は広大な空洞になっていて、盛り土するとの言明が虚偽だったことが判明しました。経過や誰の責任でおこなわれたのか、徹底究明が必要です。

## 3 地下水管理システムは破たん状態

もう一つの対策である地下水管理システムも、破たんが疑われています。盛り土を汚染させないためには、地下水の高さを1.8m以内に抑えなければならないのに、本格作動した10月14日以降も、水位は平均3.4m。大雨が降れば、ポンプの処理能力が追いつかないと指摘されており、土壌再汚染の可能性すらあります。

# そねはじめ都議が追及

築地市場の豊洲移転問題で、重大な問題が次々とうきぼりになっていきます。

日本共産党都議団は、石原元知事が東京ガス工場跡地の豊洲を移転候補地とした時点から「食の安全・安心が求められる市場の候補地と

しては不適切」と主張。現在も、土壌汚染対策がまともにおこなわれてこなかった経緯と責任について、都議会で徹底追及しています。

そねはじめ都議は10月28日の都議会公営企業会計決算特別委員会で、盛り土が

おこなわれなかったことについて、土壌汚染対策を担当する都の基盤整備担当部が事前に把握していた事実を示し、自己検証のやり直しを要求。村松中央卸売市場長は「すべてを含めて再調査を進めている」と答えました。

# 跡地利活用案固まる



## 【コンセプト】

安全で災害に強く誰もが  
いきいきと健やかにくらせるまち

## 【基本的方向】

### (1) 安全で災害に強いまちづくりのための有効利用

道路事業等の防災まちづくりを推進し、水害への対応等地域の防災性を高め、安全で災害に強いまちづくりのために有効利用する。

### (2) 保育所待機児童の解消

保育需要の急速な高まりを解消することで「子育てするなら北区が一番」をより確実なものにするため、保育施設の設置を検討する。

### (3) 介護と医療機能の確保

誰もが安心・安全に住み慣れたまちで、その人らしく充実して元気でくらせるよう、介護と医療連携の機能を有する病院等医療施設や老人保健施設等高齢者施設の誘致等、地域課題の解決につながる利活用を検討する。

※最終報告書（案）からの抜粋ですので、確定した報告書では、文言が若干変わることがあります。

旧赤羽中と旧清至中跡地の利活用について議論してきた学校施設跡地利活用検討委員会は9日、最終回となる第5回委員会を開き、両校の利活用方針を示す最終報告書をまとめました。旧赤羽中跡地については、防災、保育、介護・医療などを主な目的とし、「多世代がくらしやすい地域づくりを基本的考え方とする」方向が示されました（別掲）。

道路事業代替地は十分な協議が前提  
また、東京都が補助86号線など道路事業の代替地として跡地の一部を活用したいと求めていることについては「最低限必要な用地の売却を検討する」としましたが、その際には都と十分に条件等の協議を行い、「条件が整った場合に限り」との条件が付与されました。

## NO WAR KITAKU ACTION

## 守ろう! 愛・憲法・平和・命

6日におこなわれたNo War Kitaku Actionパレード(王子三角公園→赤羽公園)に、200人以上が参加しました。



パレード終結地点の赤羽公園で記念撮影

